

小倉薬剤師会 9月学術研修会のご案内

謹啓 先生方におかれましては 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さてこの度、下記の要領にて小倉薬剤師会学術研修会を開催いたします。
ご多忙中、誠に恐縮とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席頂きますようお願い申し上げます。

謹白

記

【日時】 2018年 9月18日(火) 19:00～

【場所】 小倉薬剤師会館 3階 研修室
北九州市小倉南区富士見2丁目8番20号

【情報提供】 19:00～19:15

『イマチニブ錠「NK」について』

日本化薬株式会社

【P S】 1. ヒューマニズム (倫理) : ①-21
2. 医薬品の適正使用 (安全性、経済性) : ②-104～108

【特別講演】 19:15～20:15

座長 学術委員会 有吉 ちさと

『造血器腫瘍の基礎と白血病の治療』

演者 日本化薬株式会社福岡医薬支店 学術推進担当 上杉哲也

<講演会要旨>

造血幹細胞が自己複製や分化を繰り返すことで、赤血球や白血球、血小板などのすべての血球が産生されます。造血器腫瘍はある段階で正常な造血が行われなくなり、がんが増殖する疾患です。

今回の講演では、造血とは何か、造血器腫瘍発症の仕組み、症状、診断方法、疫学などの基礎的な情報をはじめに提供させていただきます。次に造血器腫瘍として代表的な疾患である白血病についてご紹介いたします。白血病には病状進行がはやい急性白血病と、かなり進行するまで無症状で、健康診断などにより白血球細胞増加症を指摘され受診して初めて見つかる慢性白血病があります。治療は薬物療法が中心となり、症例によっては骨髄移植が検討されます。薬物療法には抗がん薬や分子標的薬が使用されます。急性白血病では抗がん薬による多剤併用療法が中心となります。抗がん薬による化学療法の治療原理についてご紹介し、代表的多剤併用療法をご紹介いたします。慢性骨髄性白血病も以前は抗がん薬による化学療法やインターフェロンによる治療が行われ、その予後は厳しいものでした。しかし現在では内服の分子標的薬が導入され飛躍的に予後を改善しています。慢性骨髄性白血病の治療コンセプト、治療効果の判定基準、ガイドラインの記載 服薬コンプライアンスと治療効果、などをご紹介いたします。

共催：(一社)小倉薬剤師会
日本化薬株式会社